

NPO 自立支援センター ふるさとの会

2008.09.25
【第9号】



これはHTML形式のMAILです。
オンラインで無い場合は画像が表示されない可能性があります。

HOMEPAGE
SCHEDULE
EVENTs

INDEX

1. ふるさとの会主催シンポジウム2008のお知らせ
2. 地域生活支援センターすみだイベント『高校野球観戦』のご報告
3. ふるさとで働くその2 ホテル三晃 田辺登館長
4. 全体研修 テーマ:ホームレスの自立支援/大阪市立大中山徹教授
5. 第1回「地域ケア連携を進める会」報告
6. 今月のボランティア

※ふるさとの会のメールマガジンをご愛読いただき、誠にありがとうございます。
今後もふるさとの会の活動内容を定期的に情報発信させていただきたいと存じます。
ご不要の場合はお手数ですがご返信くださいますようお願いいたします。

1. ふるさとの会主催シンポジウム2008のお知らせ

「高齢低所得者の居住支援と地域ケアネットワークの広がり」

—中間施設利用者の〈重篤化〉を踏まえて—

昨年のふるさとの会主催シンポジウムでは「社会的入院」をテーマに居住支援と地域ケアについて考えました。ふるさとの会運営宿泊所・自立援助ホームの利用者の半数が病院退院者であり、単身高齢者を中心に退院後の帰住先確保が困難になっている問題を広く提起しようとしたものです。

その後一年を振り返ると、残念ながら状況はより深刻になっています。療養病床の縮小、在院日数の短縮化など医療制度の変化を背景に、入院したくてもできない、あるいは介護保険を利用できない状態で退院しなければならないなど「制度の隙間」は広がっている感があります。また小さなトラブルから施設を出され、行き場を失う「社会的不寛容」の問題も見えてきます。

制度の隙間からこぼれ落ちる人がいるだけではありません。東京では有料老人ホームや老健に入れぬ低所得者や単身者にとって、圏外の高専賃(高齢者専用賃貸住宅)や有料老人ホームが生活保護受給者等の受け皿となり、その中には優良な施設がある一方、虐待事件の報告も後を絶ちません。

私たちは問題の核心を〈地域〉という概念でとらえています。今年3月には山谷地域のNPO、福祉事務所、東京都保護課、急性期病院、精神科病院、東京消防庁、在宅の診療所、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、介護事業所、大学・研究機関などから約60名が集まり、さまざまな病気や障がいを抱える高齢者・低所得者をネットワークで支えることの大切さを共有しました。問題圏はもはやホームレスや生活保護にとどまらず、孤独死、老老介護、認知介護など、疲弊した地域社会における低所得者の居住とケアをどうやって総合するかという課題へと広がっています。

今年のシンポジウムでは、居住確保、地域ケアのネットワーク化、対人援助を三つの柱に据えます。高齢低所得者を主題にしなが、障がいやさまざまなハンディキャップを持つ人も含め、多様な居住と生活を支えていく地域社会のあり方を、多くの方々と共に考えてゆきたいと思えます。

【日 時】2008年10月13日(月・体育の日) 13:30開演(13時開場)

【会 場】墨田区生涯学習センター「ユートリア」(別紙地図参照)

【プログラム】

13:30 開演・主催者挨拶

13:45 基調講演「病院が地域ケア連携のためにできること—利点と限界を見据える」

本田 徹 氏 浅草病院医師/NPO法人シェア=国際保健協力市民の会 代表理事

14:30 実践報告「地域とともに、人を支援することについて」

田辺 登 自立援助ホームふるさとホテル三晃責任者

15:30 パネルディスカッション「居住支援と地域ケアネットワークの広がり」

上原 隆夫 氏 新宿区福祉部生活福祉課相談係長

坂本 千秋 氏 東京都福祉保健局生活福祉部保護課指導係指導担当係長

佐久間 裕章 NPO法人自立支援センターふるさとの会代表理事

本田 徹 氏 浅草病院医師/NPO法人シェア=国際保健協力市民の会代表理事

山下 眞実子 氏 NPO法人訪問看護ステーションコスモス代表理事

(五十音順、所属は2008年8月現在)

コーディネーター:滝脇 憲 東京外国語大学非常勤講師/ふるさとの会理事

17:00 閉会挨拶

【参加費】1,000円(終了後懇親会を予定。参加費2,000円)
 【主催】NPO法人自立支援センターふるさとの会
 【協賛】ホームレス支援全国ネットワーク
 【後援】東京都社会福祉協議会医療部会／NPO法人友愛会

2. 地域生活支援センターすみだイベント『高校野球観戦』のご報告

7月16日(日)、センターすみだの主催で、高校野球観戦のイベントが行われました。場所は江戸川区球場、対戦カードは武蔵工大附属高校と駒場学園高校の第3回戦。利用者5名とボランティア1名、職員2名の計8名が参加しました。

日頃、乗り物をあまり利用しない方も多く、そうした方に乗り方を慣れていただき、また生保受給者の方が無料で利用できるサービスがあることを知っていただくために、貸し切りバスではなく、電車とバスを乗り継いで会場に向かいました。球場に着き、ゲートをくぐって小高いスタンドに立つと、芝生の緑が眩く、独特の開放感が感じられます。テレビ観戦にない臨場感を味わい、利用者の方々もどこかウキウキしていました。試合内容も最終回までもつれた緊迫した展開となり、みな満足して野球を楽しんでいました。事故もなく、時間もほぼ予定どおりにこの日のイベントを終えることができました。

(なお、イベントの取材・写真の提供についてはセンターすみだの館野職員の協力を得ました)
 (馬場英夫)



公共交通を利用したの外出も仲間と一緒に楽しい 広々としたスタンドでの声援はいい気分転換になりました



3. ふるさとで働くその2 ホテル三晃 田辺登館長

とても忙しい日々の業務に追われインタビューの時間設定がなかなか取れない田辺館長、やっと取れたのは宿直の日の夜8時でした。三晃の受付に座り話をきく間も、利用者さんが「薬」、「コップがないよ」などなどに対応しながらのインタビューでした。

佐藤:さて、初めにふるさとの会との出会いと入社するきっかけはどんなところでした?

田邊:えー、入社前は青年海外協力隊(JOCV)隊員としてサモア国に赴任してまして、2年の任期を1年延長し、さて帰国後何しようかなと考えていた時日本の“格差社会”、“社会的弱者への対応”などの情報を見たんですね。そしてサモアの人たちの高齢の方や子供達がお互い支えあって生きている風景と比較した時、“日本の危機”を感じたんですね。そんな時ふるさとの会の求人があり、ここだと思ったんです。

佐藤:それで三晃に来たと言う事ですね。そこで、現在ふるさとの会職員となり2年8ヶ月と言う事ですが、3年目職員となろうとする今年3年目の深みはありますか？

田邊:うーん、生活支援としての時間が多く、それが多くの利用者さん、例えばメンタルの障害を抱えた方やいろんな方とのコミュニケーションの積み重ねにつながり、コーディネート業務に活着ているはずだと思っています。その中でホテル三晃の置かれてきた立場、三晃へたどり着いた人々の背景理解が出来、有意義でした。今後は行政、各施設、医療、介護など地域の社会サービスとの協力関係を一段と強く作ってゆかなければならないことを責任者として切に感じていますね。

佐藤:三晃の今後は？

田邊:もう三晃しかない！と言う方々。既存の枠組での受け入れが難しい方々を受入れ、ハード・ソフトの両面で形として三晃方式が作れればいいと思っています。第2、3の三晃を作る事も含め今はその過程にあると思っています。

佐藤:これまで三晃で一番嬉しかったことは？

田邊:日々小さい喜びがあるんだよね・・・(しみじみと)。例えば彼ですけど(受付近くを歩いている)アルコール依存の方ですが、ある日『田邊さん、俺絶対酒辞められない』『仕事したいんだよなあ』って言うので福祉事務所のケースワーカーと医療の方と相談して通常のアルコール依存の治療はしないことにしました。初めの頃はかなり不安定な方でしたが、その彼が働きたいという意思を持ちつつ昨年は夏祭りのボランティアをしたり、車椅子を押す手伝いをして、そして2年半後にケア付就労までに到りました。でも、プレッシャーだったのか就労前日お酒を飲んでしまい、寸前でキャンセルということが二度ほどあり、それを経てこちらも待ち続けて、ようやく2ヶ月前から賄い仕事をスタートするに至りました。病気の治療をしていて休んでいますけど完治したら配膳の仕事を再スタートする事になっています(と、話しつつ彼の指に薬を付けてあげる)。

佐藤:あさひ館で、ですね。それは信頼感と関係性の結実ですね！自分のペースで変化を遂げることができたんですね。それを同行(どうぎょう)と言っていいでしょうか？

田邊:いいでしょう。

佐藤:それでは、田邊さんにとって“三晃”は職場であることと他に何か意味していますか？例えば自分自身の価値観とか存在感だとか、何かを表象していますか？

田邊:ここ三晃は施設ですが、例えばここが一つの都市、街であると見ると揉め事、諍い、助け合い諸々が何でもあって当然だしその中にいるって事かな。

佐藤:人間の自然な姿と存在、そのものですね。

田邊:その中で、街の中にある事で何でも有！と言う気持ちと、責任者である以上、一方では運営面のリスク管理をするというその匙加減がなかなかね・・・。

(佐藤):(異文化の中でのジレンマとアジャストメントみたいな感じかな)。

夜9時、終わらせねばこのままおしゃべりを続けそうなので、それでは今日はこの辺でと席を立ちました。今一番したいことは何かとお聞きするとウエイトトレーニングだそうです。今秋の10月、ふるさとの会シンポジウムでは田邊さんのケース検討発表が行われる予定です。それに向けての緊張感もあることでしょう。

ホテル三晃は大所帯です。そこを街と見れば豊かで、あったかい街でありそして利なる街でもあるように見えます。細やかな配慮と寛容な心、豊かな発想を持つての対応が求められます。それにしても心身ともに強靱な体力が第一です。暇を作ってトレーニングして下さい。そして今後のホテル三晃が更なる実り多き街と発展することを一職員としても祈念せずにはおれません。

(佐藤信子)





事務室にいても利用者対応が絶えることはありません

ホテル三晃前にてスタッフと共に

4. 全体研修 『ホームレス支援と地域再生—ホームレスの現状分析から地域生活問題分析・システムづくりへ—』

9月をむかえ暑さもやわらいだ先日、14日(土)の本部研修室での定例全体研修会に大阪府立大学人間社会学部社会福祉学科の中山徹先生をお招きしました。冒頭、現在ふるさとの会が目指し進めている、社会的に排除された人(要介護高齢単身者、認知症高齢者、精神・知的障害者、身体障害者や社会的入院患者等)たちを地域で受け入れる街づくりに関して基本的な今後の方針の確認があり、講演が始まりました。

中山先生は、「高齢在日韓国・朝鮮人」「欧米ホームレス問題(上下)実態と政策」など著書を手がけており、今回は、阪南自治体労働行政協議会によっておこなわれた3つの調査における地域の産業・雇用の現状、雇用や就労に関する政策、事業組織や事業主体のあり方についてお話をしていただきました。

その中で、現在の地域社会では深刻な構造的不況により地場産業が崩壊し、多くの失業問題をかかえている。地域のコミュニティーが破壊され地域社会全体が疲弊する状況が生じており、その停滞する地域社会において自立支援センターを中心とした弱者のセーフティネットとなる街づくりを進め、そして就職困難層等に就労の場を提供する新たな街づくりを目指すNPOの存在の社会的意義について話してくださいました。

介護事業所を持っていることや医療連携に強いことはふるさとの会の強み、とおほめの言葉をいただき、現在の活動にも確信を持つことできる研修会となりました。

(山形章)



5. 第1回「地域ケア連携を進める会」報告

8月29日、浅草病院の本田徹医師、NPO法人友愛会の吐師代表理事、そしてふるさとの会の佐久間裕章代表理事を共同呼びかけ人として、CUCS(Conference for Urban Community Services)の懇談会を開催。医療、介護、NPO、行政、学識経験者といった様々な分野から29団体、67名の参加がありました。浅草病院には全面的なご協力にて会場をご提供いただきました。

当日は実践報告として、吐師さんと東京都保護課保護係の金杉係長からお話をいただきました。吐師さんからは、友愛会の利用者のケース事例報告をもとに、制度の隙間に陥るケースをいかに地域の社会資源ネットワークで支えていくべきかという問題提起が出され、一つの解決策として、実践レベルでの実務相談会の設置と定期実施が提案されました。社会資源のネットワークを構築する上では、顔の見える関係性と各々が提供できるサービスの理解が鍵となります。そこで、今後はCUCSをいう名称を改め「地域ケア連携を進める会」として懇談会を

定期開催することが提案され、会場から拍手で承認をいただきました。

東京都保護課の金杉係長からは、東京都内の要介護被保護者の居所として(都外を多数含む)他管内「施設」が利用されており、中には適切な支援がなされないどころか虐待等の事例が起きているところもあるとの現状報告がありました。

当日は、新宿区・墨田区の福祉事務所からもご参加いただきましたが、要介護被保護者の地域での受け皿の不足が指摘されました。ふるさとの会では自立援助ホームふるさとホテル三晃等で要介護被保護者のケアを行っていますが、ケアの質や透明性は言うまでもなく、居室の絶対数がニーズに追いついてない現状を再認識させられました。

当日の議論内容の詳細については別途報告書を作成しておりますのでご期待ください。また、当日の議論を発展させたものとして、10月13日に「高齢低所得者の居住支援と地域ケアネットワークの広がり」と題したふるさと会主催のシンポジウムを開催いたしますので、是非とも皆様にご参加いただきたいと思います。

(古木大介)



友愛会吐師代表よりケース事例報告をいただきました 本田先生には10/13のシンポで基調講演をいただきます



6. 今月のボランティア

敬老室日曜開放の特別行事は、毎月第3日曜日に昼食会 & イベントを行っております。9月21日(日)は恒例の昼食提供・特別行事を開催しました。メニューは親子丼、イベントは「縁日・ゲーム大会」を行いました。45名の利用者が参加、炊き出しは80食が出ました。

10月のイベントとしては現在、遠足(貸し切りバスでの小旅行)を計画中です。詳細が決まり次第、お知らせいたします。ご都合がよろしければ是非ご参加ください。また、コメ、調味料、保存食品などは随時募集しております。お問い合わせは下記まで、お気軽にご連絡下さい。

<連絡先>

城北労働・福祉センター分館『敬老室』 TEL:03-3801-0377

(担当:町田/馬場)

メールアドレス: boranteahurusato@gmail.com

ふるさとの会HP: <http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/>

発行元: 特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会

〒111-0031 東京都台東区千束4-39-6

TEL: 03-3876-8150 FAX: 03-3876-7950

hurusato@d5.dion.ne.jp

HP: <http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/>